

演題番号 <b>16</b>	家族とともに患者の最期を支える ～好きな物を食べることが残された人生に与える効果～
発表者	府中市立湯が丘病院 看護師 下間 凌太
共同発表者	妹尾 典明

近年、わが国は超高齢社会に突入し、精神科（当院）に入院している患者も、社会的入院が問題視されることわかるように高齢化が進み、それに伴い患者自身のキーパーソンは世代交代し、家族関係の希薄化に拍車をかけている。結果、最期は病院で看取るケースが増えている。ターミナルケアは精神科においても、重要な課題となっていくであろう。A氏は糖尿病で食事制限があり好きな物を食べることができなかった。終末期で食事摂取量が低下する中、最後に好きな物を食べたいという欲求を叶えてあげたいと思った。そして、その欲求を叶えたことでA氏の表情や言動に変化があった。また、希薄だった家族関係にも変化がみられたのでここに報告する。

MEMO

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---